

高二

浅見 玲菜

海は足の下に光る。遮ぎる雲の一片さえ持たぬ
春の目影は、あまねく水の上を照らし、いつの間にか
ほとぼりは波の底まで浸み渡ったと思わるるほど
暖かに見える。色は一刷毛の紺青を平らに流し
たるところどころに、しるかねの細鱗を畳んで濃や
かに動いている。春の日は限りなき、天が下を照らし
て、天が下は限りなき水を湛えたる間には、白き帆
が小指の爪ほどに見えるのみである。しかもその帆は
まったく動かない。往昔入貢の高麗船が遠くから
渡ってくる時には、あんなに見えたであらう。

高二

平野寿樹

海は足の下に光る。遮ぎる雲の一片さえ持たぬ
春の目影は、あまねく水の上を照らして、いつの間
かほとぼりは波の底まで浸み渡ったと思わるるほど
暖かに見える。色は一刷毛の紺青を平らに流し
たるところどころに、しらかねの細鱗を畳んで濃
やかに動いている。春の日は限りなき、天が下を照らし
て、天が下は限りなき水を湛えたる間には、白き帆
が小指の爪ほどに見えるのみである。しかもその帆は
まったく動かない。往昔入貢の高麗船が遠くから
渡ってくる時には、あんなに見えたであらう。

高二

三宅 珠音

海は足の下に光る。遮ぎる雲の一片さえ持たぬ
春の目影は、あまねく水の上を照らし、いつの間に
かほとぼりは波の底まで浸み渡ったと思わるるほど
暖かに見える。色は一刷毛の紺青を平らに流し
たるところどころに、しるかねの細鱗を畳んで濃や
かに動いている。春の日は限りなき、天が下を照らし
て、天が下は限りなき、水を湛えたる間には、白き帆
が小指の爪ほどに見えるのみである。しかもその帆は
まったく動かない。往昔入貢の高麗船が遠くから
渡ってくる時には、あんなに見えたであらう。

優良賞